

サイアム商業銀行(SCBn)

トップラインは伸びたがデジタル化のための費用で減益、デジタル化で店舗・従業員的大幅削減へ

タイ | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG SCB:TB | REUTERS SCB.BK

- 2018/12 期通期は、総収益が前年同期比 1.5%増の 1,382.25 億 THB、営業利益が同 6.3%減の 735.86 億 THB、純利益は同 7.1%減の 400.68 億 THB となった。
- 金利収益は好調だったが、非金利収益の減少、テクノロジー投資や新規顧客獲得マーケティングの営業費用増大により、減益だった。
- デジタル化の拡大により、2018 年末の取引は 55%が電子取引となり、前年同期の 32%から増加した。

What is the news?

2018/12 期 4Q (9-12 月) は、総収益が前年同期比 1.7%減の 337.81 億 THB、営業利益が同 6.8%減の 176.52 億 THB、純利益は同 23.0%減の 70.84 億 THB となった。トップライン収益は金利収益が好調だったものの、非金利収益が減少したことや、テクノロジー投資やマーケティング費用が重荷となった。貸出利鞘である純利息収益は同 4.7%増の 247.98 億 THB。貸出残高が同 5.2%増加したことや、銀行間取引や短期金融市場で金利収入の利回りアップにより増収となった。非金利収益は同 15.8%減の 89.83 億 THB。電子取引の手数料免除やミューチュアルファンド手数料減、低ボラティリティによるトレーディング収益減、保険手数料収入の減少が響いた。一方、営業費用は同 4.7%増の 161.29 億 THBと大幅に増加。給与調整による人件費増、銀行投資プログラムに起因する減価償却費用の増加やソフトウェアのレンタル費用が嵩んだ。経費率は同 46.8%と前年同期の 44.9%から悪化した。

2018/12 末、貸出残高は同 5.2%増の 2兆1,405.61 億 THB。預金残高が同 3.2%増の 2兆1,596.31 億 THB。貸出先の構成比は、コーポレート向けが 38.8%、中小・零細企業向けが 15.9%、住宅ローンが 30.1%、自動車ローンが 9.5%、その他が 5.7%であった。預貸率は 99.1%と前年同期の 97.2%から上昇した。不良債権比率（グロス）は 2.84%と前年同期の 2.81%から悪化した。主に鉱業会社の新規貸出クレジットの厳格化が影響した。

How do we view this?

同社は、2019 年のタイの経済成長率の見通しを 2019 年の 4.2%予想から 3.8%に引き下げているが、2019/12 通期の会社計画は、非金利収益が前期比 5%増以下、貸出残高が同 5-7%増、NIMが 3.2-3.35%、不良債権比率（グロス）が 3%以下である。同社はテクノロジーの導入によるビジネスモデルの変革を強く推し進め、電子取引ユーザーを 2018/12 期末に 1,200 万人まで増加させる一方、クレジットカードや個人ローンなどの消費者や中小・零細企業向け貸出増により 2019 年の貸出伸び率を 5-7%とし、コスト削減と生産性向上を目指す計画である。

低PER・低PBR・高配当利回りなど、割安銘柄として投資妙味がある。

業績推移

※参考レート 1THB=3.47円

事業年度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12F
総収益(百万THB)	173,303	175,556	179,495	146,137	154,936
当期利益(百万THB)	47,612	43,151	40,067	43,254	47,701
EPS(THB)	14.01	12.69	11.79	13.05	14.63
PER (倍)	9.28	10.24	11.03	9.96	8.89
BPS(THB)	98.38	107.03	111.91	119.92	128.40
PBR (倍)	1.32	1.21	1.16	1.08	1.01
配当(THB)	5.50	5.50	5.50	5.69	6.05
配当利回り (%)	4.28	4.28	4.28	4.42	4.71

(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(THB) **5.69** (予想はBloomberg)
 終値(THB) **130.00** 2019/1/29

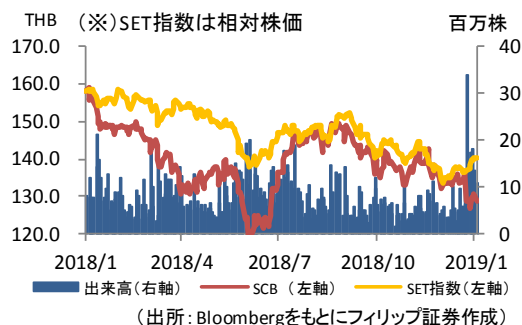
会社概要

1904年にラーマ5世国王の兄弟であるマヒサラ・ラジャハルダヤ王子のパイロットプロジェクトのもと、タイ初の国法銀行「Book Club」として創業。1907年に資本金300万THBで本格的な商業銀行として設立された。「タイの銀行のプロトタイプ」として、タイ経済の発展に寄与してきた。1976年、タイ証券取引所に上場を果たした。

タイを代表するユニバーサルバンクで、幅広い金融商品・サービスを提供している。リテール向けには住宅ローン、個人ローン、自動車割賦販売、クレジットカード、ATMカード、デビットカード、外国為替取引、海外送金などのほか、投資商品やバンカシュランス商品を提供する。コーポレート、ビジネス向けには、キャッシュ・マネジメントサービス、企業融資、貿易金融、投資銀行サービス、アドバイザリー、その他財務関連サービスを提供する。主要な子会社に「SCB証券」、「SCBアセットマネジメント」、「SCB生命保険PLC」などがある。タイのほか、シンガポール、香港、上海、ラオス、ベトナム、カンボジア、ケイマン諸島に拠点を持つ。

企業データ (2019/1/30)

ベータ値 1.05
 時価総額(百万THB) 441,416
 企業価値=EV(百万THB) -
 3ヵ月平均売買代金(百万THB) 917.5



主要株主 (2019/1)

(%)

1.MAHA VAJIRALONGKORN B 23.38
 2.Vayupak Fund 1 23.13
 3.Crown Property Bureau 18.14

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp
 増淵 透吾
 +81 3 3666 0707
 togo.masubuchi@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員 庵原浩樹

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増渕透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。